

令和2年度市政懇談会（口加高校）会議録

- 期 日：12月25日（金）
- 場 所：県立口加高校
- 参加者：18人（2年生：9人、1年生：9人）

行政に関心を持ってもらうことと将来を担う若い世代の視点での意見を市政に反映することを目的に、市内高校生を対象として懇談会を開催しました。

第2期南島原市総合計画に基づいた市の取り組み状況の概要を説明した後、意見交換を実施しました。

以下、主な懇談内容。

日頃感じている「つながり」について

【高校生】

- ・帰宅途中に道路の掃除をしていたおじいさんに会った時、「掃除をさせていただいてありがとうございます」と声をかけた。そういうのがつながりかなと思う。
- ・中学生だった頃、市から防災ラジオが来た。毎朝、起こしてくれるし、コロナに気をつけてなど、毎日、市とつながっている感じがする。
- ・まちのなかで地域の人に挨拶をしたら、笑顔であいさつを返してくれるのであったかいと思う。

【市】

- ・あいさつから人とのつながりを感じているということが大いにある。私が小学生の頃、親から通学の行き帰りにあいさつしているのかと言われていた。地域の皆さんとのつながりは、あいさつが基本になるという実感がある。どなたもそういった実感があるのではないかな。

南島原市の自慢できるところ、市外の人に伝えたい、広めたいことについて

【高校生】

- ・南島原には、野菜や魚、そうめんなどいろいろおいしい食べ物があるのでそこがよいところ。

【市】

- ・そうめんはいろいろな生産地があるが、全国で2番目の生産量。生産者が減らないように市としても取り組んでいるところ。皆さんにも食べてほしいし、皆さんからも広めてほしい。やがてここを卒業して、進学とか就職で出て行く人もいると思うが、言葉にして伝えてほしい。

【高校生】

- ・子どもを育てるために良い条件が整っている。例えば、運動公園や保育園、幼稚園などがたくさんある。申請したら医療費の助成があったりする。一番いいなと思っているのは、小中学生を対象に寺子屋の取り組みがあり、いろんな習い事に挑戦できる。運動公園がたくさんあるので、人が分散して

1つの公園に密集せずに遊ぶことができる。

・小学2年生の頃に、ここに移り住んだ。ここでしかできないだろうなということを経験してきた。例えば、たけのこ堀りとか木登りなど、都会ではお金を払ってしかできないことを無料でできる。海水浴場も都会では2時間かけて行ったりする必要があるが、ここでは15分あれば海に行くことができる。

【市】

・都会からここに来て、ここに住んでそういう思いを感じているということは、なるほどと思う。ここで生まれて育った人は、それが普通のことだと思っているから、気づきにくい。

【高校生】

・人が温かいところ。地域の方に地域の歴史などをインタビューする機会があったが、1つ聞いたら10くらいの答えが返ってくる。地域の方の活気がすごい。探究活動での留学生との交流の中でも、留学生の方から「温かい人ばかり」という感想があった。あいさつで「こんにちは」と言っただけなのに、「こんにちは。今日も学校がんばったね」などの声が帰ってくる。そういう方がたくさんいるということは自慢できるところだと思う。

・歴史がすばらしいと思う。中学生の時に、平成遣欧少年使節でイタリアに行かせてもらったが、イタリアに行ったことで逆に南島原市のすばらしさが分かった。

・原城跡が自慢できるところだと思う。原城跡は教科書に載るくらいの歴史的な事件が起こったところ。それにまつわる歴史を学べる施設が整っているのがいい。

【市】

・世界遺産として12カ所の構成資産となっている中の1つ。歴史的にそのきっかけとなった場所の意味合いで世界遺産となっている。市としてもしっかりと大事にして、それをどうやって生かしていくかということを市民の皆さんと一緒に考え取り組んでいるところ。皆さんもふるさとには世界遺産があるというふうにPRしてほしい。

【高校生】

・歴史については、小学生の頃から天正遣欧少年使節のことを学んできた。中学校の教科書では見開き1ページ程度の紹介だが、私たちは小さい頃から詳しく学んでいる。海外派遣事業や給食で南蛮料理が出たり、フェスティバス・ナタリスがあったりして、歴史が受け継がれていく環境があるところがいいと思う。

【市】

・原城跡から発掘されたものを既存の資料館に展示している。もう少し時間がかかると思うが、新たに施設を設けて、来ていただいた方に見てもらったり感じていただいたりしてもらいたいと考えている。

積極的に取り組んでいることについて

【高校生】

・お年寄りの方にはできるだけ声をかけるようにしている。高齢者同士のコミュニティが多くて、その人たちの中に飛び込んでいったら、みんなから歓迎されるという環境が小さい頃から整っていた。お年

寄りの人と交流することで、昔のことも知ることができる。これからどうなるのかということをお年寄りの人も考えているというのが分かったりする。

・地域の防災について考えていて、備蓄の商品を考えているところ。そうめんを材料に備蓄できる商品が何かできないかを考えている。

・手話の勉強をしている。有家保健センターで開催されている教室に参加している。手話を習い始めた理由は、いろんな人とコミュニケーションをとるためのツールであるし、耳が聞こえなくて発しにくい人と会話できたらと思ったから。

・市の情報を知識として蓄えることに取り組んでいる。広報紙を毎月見たり、家族や周りの人の話を聞いたりして知識を増やせるようにしている。

【市】

・せっかく作った広報紙を活用して家族と共有したりしてくれていることは、担当としてはうれしいはずだし私もうれしい。今後も続けてほしい。

【高校生】

・積極的にあいさつをするということを大事にしている。あいさつをすることで、いろんな人から笑顔が返ってくる。いろんな人が笑顔になると幸せになる。南島原は高齢者が多いが、笑顔になることで長生きにもつながり、地域が活性化することにもつながると思う。

【市】

・日々の生活の中でそれぞれが見出していくこととは思うが、あいさつするとき小さい声でするよりは元気に笑顔ですることで、表現や相手の受け止め方にもかなり違いが出てくる。

【高校生】

・周りの環境をどう大事にするかということ。1つ例をあげれば、当たり前のことだが、落ちているごみを見つけたら拾っている。環境が乱れたら心が乱れると思う。ごみが落ちていたりして環境が悪かったら観光客も来なくなってしまう。

【市】

・それぞれが気がけて、みんなで環境を大事にしていければと思う。

【高校生】

・県外の大学に行って、卒業したら南島原で働きたいと考えている。自分が生活する南島原の環境はきれいであってほしいと思うので、帰宅途中などにごみがあったら拾うようにしている。

・趣味に近いが、きれいな景色を見たりするのが好きなので、市内のいろいろなところを見て周ったりして自分のお気に入りの場所を見つけている。

【市】

・それからいろんなことに広がっていくものと思う。続けてほしい。

【高校生】

・コミュニケーションを積極的にとっている。今年度は始まってすぐにコロナで休校になってしまった。クラスの友達ともあまり話せないまま休校に入ってしまったので、休校が明けたときからなるべく話すように心がけている。これからは外国の方との交流が増えてくると思うので、そのときにコミュニケ

ーションをスムーズにできるように、ALTの先生と積極的に話したりして英語の勉強を頑張っている。

【市】

・それぞれ自分が積極的に取り組んでいることを話していただいた。分野は違うが、一生懸命に頑張っていることは学校のPRにもなり、地域の活性化にもつながっている。今後もさらに進めてほしい。

地域活性化の取り組み(アイデア)について

【高校生】

・あいさつなどでお年寄りの方との交流がすごくいいのではないかなと思う。高齢化社会は過疎化などマイナスイメージが多いが、観光プランを作って若い人たちと交流することによってプラスの方向に変えていきたい。実際、高齢者と話してみたら元気な方が多いし、いろんなことを教えてくれて気軽に協力してくれる。そういうところをもっと若者に伝えていけるような交流イベントなどを企画できたらいいと思っている。

【市】

・高齢の皆さんを巻き込んでいく方法は、どういったものがあると思うか。

【高校生】

・最近の子どもはスマホとかゲームなどを小学生の頃から持っている。外で交流したり昔遊びをしたりすることがあまりない。有馬小学校では昔遊びの道具がそろっていて、やり方を教えてもらったりしていた。まずは遊びから会話を発展させていく方法があると思う。

・防災を通じて地域の人と交流ができる「防災さるく」、「防災キャンプ」のようなものができたらと思う。

【市】

・あなたが描く防災キャンプとはどのようなイメージなのか。

【高校生】

・防災は一人でできないことが多い。避難所などを擬似的に体験することで、実際に起こったときの不安が少しでも和らげばと思う。

【市】

・台風が来たとき避難所を旧町に1カ所ずつ、市内で8カ所を設けて合計50人から60人ほどの避難者があったが、ニュースなどで事前に規模が大きい台風が来るという情報があった今年の台風10号が来た時、最終的に25カ所ほどの避難所を設けて、1900人以上の方が避難された。災害もいろいろな災害があるので、どういう形で対応できるか、関心を持っていただくのはありがたい。

【高校生】

・17年間もここに暮らしているのに、高校に入るまで南の方に来る機会がなくて原城跡とかあまり知らなかった。高校2年間で、新しい発見がたくさんあった。私みたいに地元のことを知らない人が

多いと思うので、今の時期だからこそ、地元の人が地元を観光してもらってほしい。

・私の家は農家だが、南島原市には農家が多い。農家の問題は、後継ぎがないこと。それを少しでも改善するために、小中高校で農業体験をすればいいのではないか。小学生の時に農業体験をして、楽しかった思い出がある。農業体験の機会を増やせば、興味が湧く人が出てくると思う。

【市】

・南島原市の基幹産業は農業であるから、大事にしていかなければならない。

【高校生】

・昔から防災に興味があって、しかも実際に熊本地震が起こって、ここにも津波注意報が出て危機感を持った。高校に入って防災のことを調べようと思ったときに、地域の人と協力しないと防災は達成されない。一部の人が助けて弱く人々を助けられなかったら結局一緒。市のエリアを決めて、そのエリアごとに避難訓練を実施していけば、地域の結束力が高まることになると思う。そういうことができれば、防災に対する対応力が市全体として上がっていくと思う。

【市】

・市では防災マップを作成して全戸に配布している。災害が発生したときに地域の人々がどこにどう逃げればいいのか、高齢者をどう誘導していけばいいのかというのを確認してもらうための資料。これを今後うまく活用して、みんなで検討していけば、防災に対してよりよい地域になっていくものと思う。

もし市長になったら(どんなまち(市)にしたいか)

【高校生】

・もっともっと「南島原市はこんなまちだ」ということを全国的に広げられるようなシステムを作りたい。今回のアニメ制作もそうだが、ある有名な人に協力してもらったらその人を目的に見たとしても、それをきっかけに知られる。できるだけ南島原市のイメージを壊さずに、そのまま伝えられるような写真展や動画を配信するなど、そういうシステムを地域と協力していければと思う。現在、観光班のInstagramアカウントを開設して、毎日ではないが、みんなが知らないようなものを配信している。高校生のInstagramアカウントは見る人が少ないので、いろんな人に発信できない。そこで、市とか観光協会さんとかと協力してやっていけたら、いろんな人に安全に見てもらえて市のPRにつながるかなと思う。

【市】

・市では毎月発行している広報紙やフェイスブックに市公式ページ「撮ってくれんね」を開設して情報を発信している。定期的に写真とコメントをいただければ、高校生とのタイアップ企画による1つのコーナーとして発信していくことも可能だと思う。

【高校生】

・単に原城跡を見に来るといような何か1つの目的地をつくるのではなくて、ぶらぶら歩きができるような場所にしたい。そのためにごみ拾いや動植物など小さなことを大切にしていきたい。若い人と高齢者との交流の時間を増やして、若い人のエネルギーで高齢者が元気になれば、自然と地域

が活性化する。そうすることでまちが元気になる。

・若者がたくさんいた方がいいと思うので、サイクリングコースなどをつくりたい。ターミナルも新しくなったので天草からも人が入ってくる。若者が来てくれるようなところにしたい。

【市】

・深江から加津佐までの島鉄跡地をスローサイクルというかたちの自転車歩行者専用道路として整備を予定している。令和5年度までの間に国の助成を受けて来年度には工事に取りかかるようにしている。その他、深江まで来ている高規格道路を口之津町までつながるように、1日も早くつくってもらいたいと思っている。皆さんもそういう思いを持っているということに、私たちも力づけられる。それから、若者を含めてこれからの時代に必要なWi-Fi 環境について、その基礎となる光ファイバーの整備が、これまで南有馬と北有馬はできていなかった。今年度、深江から加津佐まで基本的に市全域に光ファイバーの整備が行き届くように取り組んでいる。来年度いっぱいくらいまでかかると思うが、観光客や市民の方が使いやすい環境を整えていく。

【市】

・それでは懇談会を終了したいと思う。今後もできるだけこういう機会をつくっていききたい。今後、皆さん方からいただいたいろいろな思いやアイデアなどを生かせるものを生かしていきたい。